

令和元年 9 月 20 日
海事局 検査測度課

固体ばら積み貨物の安全な荷役と運送に向けて

～国際海事機関（IMO）第6回貨物運送小委員会^{※1}（CCC 6）の開催結果概要～

英国ロンドンの国際海事機関（IMO）において、固体ばら積み貨物のより一層の安全な荷役と運送を目的とする、国際海上固体ばら積み貨物（IMSBC）コードの教育訓練方法等を示すモデルコースが合意されました。また、我が国は、IMOにおいてワークショップを開催し、参加した各国海事関係者と同コースの普及促進の重要性を共有しました。

令和元年9月9日から13日にかけて、英国ロンドンIMO本部にて、第6回貨物運送小委員会が開催されました。主な審議結果は以下のとおりです。

1. 国際運送する固体ばら積み貨物の詳細な情報の船長への提出を荷送人に義務付けるとともに、貨物の個別運送要件を規定する国際海上固体ばら積み貨物（IMSBC）コードの教育訓練方法等を示すモデルコースが合意されました。また、CCC6開催期間中に、日本・中国の共催によりIMOにおいてワークショップを開催し、同コースの普及促進に貢献しました。
2. IMSBCコードの種別A定義変更^{※2}については、我が国から慎重な検討を要請し、来年開催される第33回編集・技術（E&T）グループで引き続き審議することになりました。

審議結果等の詳細は別紙をご参照ください。

※1 安全及び環境に配慮した個品危険物及びばら積み貨物の運送、ガス燃料船及び液化ガスばら積み船の安全要件の見直し、コンテナの安全に係る事項等について審議を行う小委員会。

※2 固体ばら積み運送時に液状化するおそれのある貨物に関する分類区分。

問い合わせ先：国土交通省海事局



検査測度課危険物輸送対策室 大久保、稲吉

代表：03-5253-8111（内線 44-177）

直通：03-5253-8639 FAX：03-5253-1644

国際海事機関（IMO）第6回貨物運送小委員会（CCC 6）における審議結果の詳細

1. 国際海上固体ばら積み貨物（IMSBC）コードの教育訓練方法等を示すモデルコースが合意されました。また、CCC6開催期間中に、日本・中国の共催によりIMOにおいてワークショップを開催し、同コースの普及促進に貢献しました。

（1）背景

IMSBCコードの着実な履行に向けて、前回CCC5において、固体ばら積み貨物の安全な荷役と運送に係るモデルコースを作成することが合意されました。これを受けて、今次会合において同コース案を審議することとなりました。

（2）審議の結果

IMSBCコードの基本的な知識のほか、同コードの関連文書、目安となる研修実施時間数、理解確認のための問題集等が記載されたモデルコースが合意されました。

このモデルコースは、CCC6開催前に、中国が主体となり原案が作成され、（国研）海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所の太田氏がコーディネータを務めるレビューグループにて検証されました。

合意されたモデルコースの海事関係者への普及促進に向けて、CCC6会合開催期間中の9月12日に、ワークショップを国土交通省海事局、海上技術安全研究所及び中国交通运输部海事局の共催でIMOにおいて開催しました。同ワークショップでは、中国大連海事大学よりモデルコースの具体的内容について、ボルチック国際海運協議会（BIMCO）よりIMSBCコード実施上の問題点について、海上技術安全研究所よりIMSBCコードの概要と将来議論すべきテーマについて紹介され、モデルコースの普及促進の重要性を25の国及び機関から参加のあった約60人の海事関係者と共有しました。



ワークショップの様子



日本からの講演

2. IMSBCコードの種別A定義変更については、我が国から慎重な検討を要請し、来年開催される第33回編集・技術（E&T）グループで引き続き審議することになりました。

（1）背景

ボーキサイトの主要輸出国である豪州、ブラジル、中国等による共同研究において、同物質に、貨物の水分含有に関係する、液状化現象と異なるメカニズムの現象（動的分離※）が確認されたことを受けて、前回CCC5では、豪州より、種別Aの定義について貨物の水分含有による船舶の非損傷時の復原性の損失に着目し、より包括的な定義とするよう提案されました。同提案が採択された場合、動的分離を起こしうるという観点から、既存の種別A以外の貨物も種別Aとして再分類される可能性があります。分類を確認する試験方法が存在しない等、様々な懸念が考えられることから、我が国は慎重な検討が必要であると指摘し、今次会合において引き続き審議されることとなりました。

※ 水又はスラリー（水と泥状の混合物）の層が貨物上部に形成される現象。

（2）審議の結果

今次会合には、豪州及びブラジルから種別Aの定義変更に係るIMSBCコードの改正案が提案されていましたが、我が国から、種別Aの定義変更は安全に寄与する可能性があることは理解するものの、種別Aの定義変更に伴う貨物の再分類は個々の貨物ごとに検討すべきであり、動的分離の現象についても分類を確認する方法を示す必要があることから、慎重に検討する必要があることを指摘しました。これを受けて、来年開催される第33回E&Tグループで引き続き審議することとなりました。